

## 7. 引用文献

- 1) Headache Classification Subcommittee of the International Headache Society :  
The International Classification of Headache Disorders 2nd Edition (ICHD-II)  
Cephalalgia 24 (Suppl 1): 1、 2004.
- 2) 日本頭痛学会・国際頭痛分類普及委員会 訳：国際頭痛分類第2版 新訂増補  
日本語版、医学書院：東京、2007.
- 3) 松宮輝彦. 硝酸薬投与による頭痛にはどう対処すればよいのでしょうか. 診断  
と治療 2002;90: 965.
- 4) 西山信一郎：冠拡張薬、medicina 2006;43;1571-1573
- 5) Limmroth V et al. Features of medication overuse headache following overuse  
of different acute headache drugs. Neurology 2002;59:1011-1014
- 6) 柴田護、森田陽子. 当院における薬物乱用頭痛の治療経験. 日本頭痛学会誌  
2007; 34: 117.
- 7) Moskowitz Y、Leibowitz E、Ronen M、Aviel E. Pseudotumor cerebri induced  
by vitamin A combined with minocycline. Ann Ophthalmol. 1993; 25: 306-8.

表 頭痛を誘発または増悪させる可能性のある主な薬剤

薬効分類		一般名
催眠鎮静剤、抗不安剤		バルビツール剤
抗てんかん剤		プリミドン
パーキンソン剤	パーキンソン症候群治療剤	アマンタジン
	ドーパミン作動薬	プロモクリプチン
精神神経用剤	抗うつ剤	イミプラミン、パロキセチン
	躁病・躁状態治療剤	炭酸リチウム
抗不整脈剤		アジマリン、アミオダロン、キニジン、ジソピラミド
利尿剤	炭酸脱水酵素抑制剤	アセタゾラミド
血圧降下剤	ヒドララジン製剤	ヒドララジン
血管収縮剤	麦角製剤	ジヒドロエルゴタミン
	トリプタン系薬剤	エレクトリプタン、スマトリプタン、ゾルミトリプタン、ナラトリプタン、リザトリプタン
血管拡張剤	カルシウム拮抗剤	ニフェジピンなど
	硝酸剤・亜硝酸剤	亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド、ニトログリセリンなど
	その他の血管拡張剤	ジピリダモール
高脂血症用剤	クロフィブラート系製剤	クロフィブラート
気管支拡張剤		テオフィリンとその誘導体制剤
消化性潰瘍用剤	H <sub>2</sub> 遮断剤	シメチジン、ラニチジン
	プロトンポンプ阻害剤	オメプラゾール
鎮吐剤		オンダンセトロン
甲状腺ホルモン剤	抗甲状腺ホルモン剤	チアマゾール
その他のホルモン剤		オクトレオチド
その他の泌尿生殖器官および肛門用薬		シルデナフィル
ビタミン A 剤		ビタミン A
その他の血液・体液用薬		プロスタサイクリン (PGI <sub>2</sub> )、シロスタゾールなど
習慣性中毒用剤		ジスルフィラム
抗生物質製剤		テトラサイクリン、ミノサイクリン
抗結核剤		イソニアジド、リファンピシン
抗真菌剤		グリセオフルビン
合成抗菌剤		ナリジクス酸、トリメプリム＋スルファメトキサゾール
抗ウイルス剤		ジダノシン
その他の生物学的製剤	インターフェロン製剤	インターフェロンβ など
抗原虫剤		クロロキン、メロニダゾール
他に分類されない治療を主目的としない医薬品		ニコチン
あへんアルカロイド系麻薬(オピオイド)		コデイン、モルヒネなど

※ 国際頭痛分類・第2版・新訂増補日本語版(医学書院)を元に作成

## 参考1 薬事法第77条の4の2に基づく副作用報告件数（医薬品別）

### ○注意事項

1) 薬事法第77条の4の2の規定に基づき報告があったもののうち、報告の多い推定原因医薬品を列記したもの。

注)「件数」とは、報告された副作用の延べ数を集計したもの。例えば、1症例で肝障害及び肺障害が報告された場合には、肝障害1件・肺障害1件として集計。

2) 薬事法に基づく副作用報告は、医薬品の副作用によるものと疑われる症例を報告するものであるが、医薬品との因果関係が認められないものや情報不足等により評価できないものも幅広く報告されている。

3) 報告件数の順位については、各医薬品の販売量が異なること、また使用法、使用頻度、併用医薬品、原疾患、合併症等が症例により異なるため、単純に比較できないことに留意すること。

4) 副作用名は、用語の統一のため、ICH 国際医薬用語集日本語版 (MedDRA/J) ver. 12.0 に収載されている用語 (Preferred Term : 基本語) で表示している。

年度	副作用名	医薬品名	件数
平成19年度	頭痛	塩酸バラシクロビル	5
		インフリキシマブ	3
		塩酸メチルフェニデート	3
		アレンドロン酸ナトリウム水和物	3
		メサラジン	2
		リスペリドン	2
		モダフィニル	2
		リン酸オセルタミビル	2
		ザナミビル水和物	2
		カルバマゼピン	2
		ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド	2
		酒石酸エルゴタミン・無水カフェイン配合剤	2
		酢酸リュープロレリン	2
		乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	2
	その他	40	
	合計	74	
	薬物離脱性頭痛	酒石酸エルゴタミン・無水カフェイン配合剤	1
平成20年度	頭痛	インフリキシマブ	5
		塩酸バラシクロビル	5
		塩酸パロキセチン水和物	3
		シクロスポリン	2
		リバビリン	2
		トシル酸ソラフェニブ	2
		イコサペント酸エチル	2
		イオヘキソール	2
		塩酸フェキサソフェナジン	2

		インフルエンザHAワクチン	2
		ザナミビル水和物	2
		塩酸リトドリン	2
		その他	57
		合計	88

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページ「添付文書情報」から検索することができます。

(<http://www.info.pmda.go.jp/>)

また、薬の副作用により被害を受けた方への救済制度については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページの「健康被害救済制度」に掲載されています。

(<http://www.pmda.go.jp/>)

## 参考2 ICH 国際医薬用語集日本語版 (MedDRA/J) ver.12.1 における主な関連用語一覧

日米EU医薬品規制調和国際会議 (ICH) において検討され、取りまとめられた「ICH 国際医薬用語集 (MedDRA)」は、医薬品規制等に使用される医学用語 (副作用、効能・使用目的、医学的状態等) についての標準化を図ることを目的としたものであり、平成16年3月25日付薬食安発第0325001号・薬食審査発第0325032号厚生労働省医薬食品局安全対策課長・審査管理課長通知「「ICH 国際医薬用語集日本語版 (MedDRA/J)」の使用について」により、薬事法に基づく副作用等報告において、その使用を推奨しているところである。

MedDRAではHLT (高位用語) に「頭痛」があるので、下記にこのHLTにリンクするPT (基本語) を示す。

また、MedDRAでコーディングされたデータを検索するために開発されたMedDRA標準検索式 (SMQ) では、「頭痛」に相当するSMQは現時点では提供されていない。

名称	英語名
○HLT : 高位用語 (High Level Term) 頭痛NEC	Headaches NEC
○PT : 基本語 (Preferred Term) SUNCT症候群	SUNCT syndrome
イーグル症候群	Eagles syndrome
外傷後頭痛	Post-traumatic headache
顎関節症候群	Temporomandibular joint syndrome
眼筋麻痺性片頭痛	Ophthalmoplegic migraine
緊張性頭痛	Tension headache
群発頭痛	Cluster headache
頸原性頭痛	Cervicogenic headache
血管性頭痛	Vascular headache
腰椎穿刺後症候群	Post lumbar puncture syndrome
処置による頭痛	Procedural headache
頭痛	Headache
発作後頭痛	Postictal headache
副鼻腔炎に伴う頭痛	Sinus headache
片側頭痛	Hemicephalalgia
慢性発作性片側頭痛	Chronic paroxysmal hemicrania
薬物離脱性頭痛	Drug withdrawal headache
労作性頭痛	Exertional headache